

幼児の絵図版における言語表現

都築忠義 小杉洋子 小川哲也
(聖徳大学短期大学部) (洗足学園)

去年の本学会(小杉ら、1990)で発表したように、これまでの研究から保育者の絵本の読み方が変わると、幼児の発語数が増大し、しかもそれらの発語方法には単語の羅列や単なる事象の説明のみならず、主語と述語に文章化されて発語されることが多くなる、という結果を得ることが出来た。計画的な絵本の読み聞かせにより、幼児の言語表現が変化する、しかもより正確な言語の表現法へと変化するといえよう。しかし幼児の表現方法が変化したといっても、これまでの研究では、絵本本来の目的の一つである想像性を刺激し高めているかどうかは定かではなかった。より効果的な「言語」の保育形態(絵本の与え方)といえるためには、絵本により幼児の言語表現のみならず想像性・創造性(中でも物語性)が高まったときであろう。

(1) 目的

本研究は、前述の研究の流れに沿い、以下の目的で行なったが、物語性を測定する手段を得るための基礎的な研究となる。

- ①前回の研究で得られた発語は安定しているのか、前回では刺激としてCAT図版を使用した、他の図版でも同じ傾向が認められるか、
 - ②CATと他の図版における発語内容の関連性、
 - ③性差は認められるか、
 - ④発語内容と知能との関連、
- 以上の諸点を検討するために本研究を計画した。

(2) 手続き

- ①対象；千葉県船橋市内の私立K幼稚園4才児クラスの園児、123名、その内データ不備の20名を除く103名が対象児となる。男子が56名、女子が47名である。
- ②テスト期間；1989年11月下旬から約2週間。
- ③方法；幼児一人一人を個別に園長室に呼び、CAT(「幼児・児童絵画統覚検査」-早大版CAT-、戸川行夫編、金子書房)の練習図版を見せ、「ここにいろんな動物がいますねー、何をしてるか話してくれる」という教示を与え、その発語を筆記並びに録音して記録する。

次に「ちいさいパピーちゃんのクリスマス」(いそ

の あつし等作、絵、メイト企画、1988)の中から連続性のある絵を5枚抜き出し、それらに含まれている文字を削除してカラーコピーした絵を1枚ずつ提示する。最初の1枚は教示用であり、練習図版となる。「ネコちゃんがいるねー、クリスマスです、これから4枚の絵を見せますから、ネコちゃんのお話を作ってください」と教示する。1枚ずつ渡し、幼児のお話作りが終わった後に次の絵を提示する。この間CATと同様に筆記並びに録音で幼児の発語を記録する。テスターは共同研究者の3人である。テストは2-5分程度で終了する。なお園長室はときどき幼児達が入る経験があり、特に違和感を園長室に抱いていないと思われる。またテスターは幼稚園に時々出入りしているが、被検査児とは直接会話を交わしたことはない。

知能指数は、後に当園が実施した(1990年6月)知能検査(「幼児用田中B式知能検査」、田中教育研究所、日本文化科学社)の結果を利用した。

(3) 結果と考察

CAT図版、ちいさいパピーちゃん(以下、パピーとする)における発語を以下のカテゴリーに分類した。

- ①単語数；名詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞の総数で発語の総数となる。助詞、助動詞、接続詞、間投詞を除く。
- ②事象数；図版にみられる事象について述べた数(例、ウサギが走っている、これはキリン)
- ③文型による分類

・SV；主語と述語からなる完全な文章型による表現(例、キリンがいる)

・SVO；主語、述語、目的語からなる完全な文章型による表現(例、リスさんがサカナを釣ってる)

・体言；体言で終了している不完全な文章型による表現(例、リスさんが食事)

・用言；用言で終了している不完全な文章型による表現(例、ボール投げてる)

・名詞；名詞のみの表現(例、魚釣り)

・動詞；動詞のみの表現(例、遊んでる)

以上の8カテゴリーに分類し整理したが、単語、事象以外の文型のカテゴリーは、事象数に対する割合を検討するために全て事象数で除してある。表(1)は

知能指数も含めたこれらの結果であり、全体と男女に分けた平均値が表してある。パピーのカテゴリーは4枚の合計値である。なお表中の表記CはCAT、Pはパピーにおける発語である。C事SVは、CATにおける主語と述語からなる発語をCATの事象数で除した値である。

①総発語数について

言語の総体的な表現活動量を示す単語の発語数は、CATでは12.7となり、前回の検査(小杉ら、1990)では20.1で、今回の方が少なくなっているが、その理由は不明である。パピーでは、4枚の合計が26.1で1枚平均6.5となり、CATよりも少ない発語となる。CATの方がパピーよりも絵の内容が豊富であるとも幼児が親しみやすいとも考えられるが、少なくとも幼児に表現し易い内容であったとはいえよう。

②絵図版に対する幼児の表現方法

4才児クラスの幼児の表現方法を検討してみると、単語による表現方法がかなり多い。例えば、キリン、遊んでる、と区切って表現する。キリン走ってる、或はキリンが走ってる、と事象化して表現するのは、CAT、パピー両方とも単語数の約2.5分の1である。更に完全な文章型で表現する割合は、事象表現のCATでは22%、パピーでは39%である(SV+SVO)。およそ20-40%が正確に表現されているといえるが、この値が多いか少ないかは判断できない。

不完全な文章型となる体言と用言は、CATでは43%、パピーでは29%であった。更に単語のみを表現している名詞と動詞は、CATにおいては31%、パピー

一では25%であり、いずれもCATの方が多かった。幼児にとってパピーの方が文章型で表現し易いとみられるが、その要因として図版の性質を上げることができよう。

③性差について

表(1)には男女別の発語内容が表してある。各発語カテゴリーにおいて性差に統計的に有意な差が得られたのはP事象(パピーの事象数)のみであった($t=2.93$ 、5%水準)。これらの結果は、差のあるカテゴリーもあるが全体的には絵図版に対する発語は男女差が殆どないことを示している。

④知能指数について

知能検査の実施はテストの約半年後であるためテスト時の正確な知能を表しているとはいえないかもしれないが、一つの目安となろう。各発語カテゴリーと知能指数との相関を求めてみると、殆ど相関が無いという結果となった。最も高い相関係数はP単(パピー単語)の0.11である。逆に負の相関は、C体言、P体言、P名詞で、-0.2程度となった。知能との逆相関は、知的レベルが上がればこれらの体言止めのみ、用言止めをみの表現は減ることを示していて、当然の結果といえよう。

次に知能段階をIQ=90以下とIQ=110以上の2群に分けて検討してみると、P事SVにおいて有意にIQ=110以上の群が多く($t=2.482$ 、5%水準)、P事名詞においては有意にIQ=110群の方が少なかった($t=2.68$ 、5%水準)。これら以外のカテゴリーでは両群の間に有意な差は得られなかった。全体的な相関表をみると、CATでは殆ど知能差が無く、パピーでは多少知能差が知能差が広がる傾向を示しているが、強い傾向があるといえるほどの結果ではなかった。4才児クラスの幼児では知能と発語の関係は、あまり高いことになるが、知能検査に問題がるともいえる。今回の知能検査は20人一組の集団法であり、しかも田中B式が図形中心の検査であるために、言語性の知能が十分に把握できなかったとも考えられる。

(4)まとめ

1枚で完結する絵図版とテーマが連続する4枚の絵図版に対する4才児クラスの発語内容を検討した。その結果は、発語と知的レベルとは相関が低い、性差も殆ど無い、概してテーマがあると発語数が低下する、であった。これらの結果は、絵の性質とも考えられるが、4枚の絵の提示方法によるともみられ、提示方法を変えた実験が必要と思える。

表(1)発語カテゴリーと男女差

	全 体 (103人)		男 子 (56人)		女 子 (47人)	
発 語	平 均	SD	平 均	SD	平 均	SD
C 単 語	12.73	12.71	13.02	12.84	12.38	12.87
C 事 象	5.49	4.13	5.79	4.22	5.13	4.03
C 事 SV	0.15	0.25	0.16	0.25	0.14	0.26
C 事 SVO	0.07	0.19	0.08	0.19	0.06	0.18
C 事 体 言	0.04	0.14	0.05	0.16	0.02	0.08
C 事 用 言	0.39	0.38	0.35	0.37	0.45	0.39
C 事 名 詞	0.21	0.34	0.22	0.34	0.19	0.34
C 事 動 詞	0.10	0.20	0.10	0.21	0.10	0.19
P 単 語	26.61	21.45	29.25	24.34	23.47	17.12
P 事 象	11.11	7.55	12.98	8.31	8.87	5.86
P 事 SV	0.28	0.24	0.26	0.24	0.31	0.23
P 事 SVO	0.11	0.16	0.10	0.16	0.13	0.16
P 事 体 言	0.06	0.10	0.07	0.09	0.04	0.10
P 事 用 言	0.23	0.23	0.22	0.23	0.24	0.24
P 事 名 詞	0.21	0.32	0.26	0.37	0.15	0.25
P 事 動 詞	0.04	0.10	0.04	0.09	0.04	0.11
知能指数	103.06	17.87	103.39	18.33	102.66	17.48